

ふかまちのまど

第百九号
六十九年
五月一日



恵まれた環境のもと

豊かな学校生活を

如清水高等学校 向井景昭

この春、如水館中等学校校長になりました。どうぞよろしくお願い致します。

日頃から、学校教育について深いご理解と協力を頂き感謝しております。

私事で恐縮ですが、田舎育ちの私は如水館中等学校をとりまく深町の自然は殊の外大好きです。学校に通う道すがら楽しめる自然の移り変わりは大変気に入っております。

一月の雪を残した山々、桜の咲き競う四月、やがて赤紫のツツジと白いコブシの花の五月が楽しみです。こうした自然の豊かさと共に忘れることができないのが、学校を暖かく見守り支援頂いている深町の皆さんのお気持ちです。

昨年の夏、本校の野球部が広島県で優勝し、甲子園に出場するとき深小学校の校庭で壮行式を開いていただいたことなど、日頃からの心あるご声援やご支援助を頂いて生徒も教職員も心より感謝致しております。

この深町にキャンパスを移した如水館中等学校は、目下、

教育現場で思ふこと

成末 肇士

初回に、江戸町人社会で言われていた格言を紹介しました。「三つ心、六つ懐(こぼ)、九つ言葉、十二文(まこと)、十五理(まこと)で末きまる」。

人間の心は、脳と身体を結ぶ糸のようなものだ。千本の糸を、生まれて三才までに張り廻らせよ、という事でした。

現代脳生理学では、生後三・四年で人間の脳は新生児のサイヅから大人の約三分の二のサイヅにまで成長し、内容的にも一生でいちばん急速に発達するその時です。

この時期、人間は大切なことを一生で最も多く学習し、吸収します。なかでも感性の基礎がこの時期にできるといわれます。感性の形成は、学童期を通じてずっと続きますが、その基礎を身につけるのは生後まもない時期から始まるのです。三才位までに形成されたその基礎の上に、学童期に作られる感性が積み重ねられていくのです。

発展飛躍へ向けて、学校作りにはげんでいるところですが、このような豊かな自然と暖かい深町の皆さんに囲まれて教育活動が出来ることを大変心強く幸せに思っております。

生徒たちには、深町の自然環境、学校の設備等の物的環境も大切だが、心的な環境もそれ以上に大切なことを強調しています。そのために一人の和を広げる「こと、一人の立場に立って、物事を考える気持ちと態度」の重要さを、折にふれ訴えるつもりであります。

学校では良き友との出会いはもちろん、高校生や中学生には大切ですが、例えば、困っている人を見ると自然に手助けができることや、バスの中でお年寄りに席をゆずることなど身近な生活の中で、お互いに気持ちよく充実した生活が出来るよう積



り、生活の中でお互いに気持ちよく充実した生活が出来るよう積

生後二か月の赤ちゃんが、夜中の二時に目を覚まして泣き始めました。母親がやって来ます。母親の腕に抱かれ、お乳をもらいます。母親は優しく赤ちゃんに話しかけます。「どうしたの、お腹がすいたよ、それとも寂しいの、大丈夫よ、お母さんがそばにいるからね。たくさんお乳を飲みなさいね。」やがて、お腹いっぱいお乳を飲んだ赤ちゃんは、安心して、満足して眠ります。

別の母親の例を見ましょう。部屋にやって来たのが夫とさんざん口論し、一時間前に眠りについたばかりの怒りっぽい母親だとしまじょう。「うるさいわね、いかげんにしなさいよ。いま何時だと思おうよ、まったく。お乳を飲ませながらその母親は、先程の夫との口論を思い出します。また腹をたてながら「早く飲みなさい。私だけがいつも忙しくて、誰も協力してくれないんだから。」赤ちゃんは身を固くして緊張します。

こんな二つの例が繰り返された時、赤ちゃんはどうなるでしょう。最初の赤ちゃんは、自分が助けて欲しい時や不安に感じるとき、誰かが助けてくれると

局的に努力してくれたいことを、生徒たちに求めています。深町の皆様からの暖かいご支援やご厚情にも感謝できる心豊かな人間になって欲しいと願っています。

まだ、未熟な若者で、意に沿わない事も多々あると思います。その時は、どうか学校の方にご忠告やご助言頂ければ幸いです。教職員一同力を合わせて努力致しますのでよろしくお願い致します。

思うでしょう。周囲の世界に対して、安心感や信頼感を持つようになりなす。自分が周囲に助けてもらえるのだと自分の能力に自信を持つようにもなるでしょう。

後の例の赤ちゃんはどうでしょう。近親者と自分自身の感情はかけ離れているのだ、他人はあてにならないものだ、と感ずるようになるでしょう。赤ちゃんはいつも不安です。集中力もなくなり、無気力にさえなるでしょう。

このように、生後間もない時期から三才くらいまでに、子ども自身の感性の基礎となる「自分自身に自信をもつこと、他人への共感が育つこと」ができあがると考えられます。もっとも、二人の母親は極端な例をあげたのであり、現実にはそんな母親ばかりではなく、二つの兼ね合いでしょう。でもどちらかに偏る場合、大きく子どもの感性に影響があるのは事実です。

この乳児期に、父親の役目も大切ですが、赤ちゃんが周囲に対する信頼感や、自分自身への自信を育てるには、赤ちゃんは一番身近かで接触が多いのは母親につき父親であるからです。

春夏秋冬

梶谷マサヨ

長き日を床に伏せし義妹は

桜の花と共に散り近く

総会に招かざる客に一羽居り

初夏を告げしと燕舞いとぶ

想いつ、果にぬま、に

第三歌集は遺歌集となる

ボケ防止のためにと思ひ

八十路すぎでは



五月町内各種団体行事予定

- ◆小学校(幼)
 - ▽集金日(小) 100
 - ▽参観日(小・幼) 100
 - ▽体重測定(小・幼) 100
 - ▽同(小・幼) 100
 - ▽同(小・幼) 100
 - ▽同(小・幼) 100
 - ▽同(小・幼) 100
 - ▽同(小・幼) 100
 - ▽同(小・幼) 100
 - ▽同(小・幼) 100
- ◆消防団
 - ▽消火器詰め替え(要電) 100
- ◆女性会
 - ▽親睦会 上 100
 - 中 100
 - 下 100
- ◆如水館
 - ▽創立記念式典 100



謹んでお悔み申し上げます

・頼兼 芳枝様 八〇歳 四月二〇日
・藤川 一様 七〇歳 四月二〇日

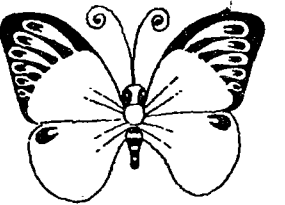
先月、四月号で新生を紹介しましたが一部誤りがありました。訂正してお詫びします。

日本経済が二ケタの伸びを示していた頃、小荷物を送るため当時の国鉄三原駅に行きました。計量された荷物は職員の手で無造作にあちらの片隅に投げやられた光景は、今でも眼底に残っています。客に切符を持たせたま、缺をいれる職員(様)もいました。貯金する

ため訪れた郵便局の窓口は、ATM取引と同様無言の対応。所定の処理を終えた通帳は、一言の挨拶もなく返される風景でした。銀行では扉を明けの途端、「いらっしやいませ」の声をかけられた時代に。▼こんな昔むかしの物語を書くのは、今年五月号である月刊誌が「特集・教育の復権」を組み、専門分野の方が意見を述べているのに出合ったからです。見出しの一つを紹介すれば、「勇気なき時代の教育―人間の生きる基本―」を教えられない大人の罪は重い―他人様には人の道を説く持合せのない私には考えさせられる記事でした。始めに書いた公務員氏の執務姿勢は、どう考えても正常とは思えません。他人様の痛みわかるひとでありたい。あるべきだと、考えるのは初老人の白昼夢なのでしようか。

わが「満蒙開拓青少年義勇軍」の記 (3)

藤川 一 (遺稿)



「泥秋村」ここが、わが満蒙開拓青少年義勇軍の永住の地です。中には、更に僻地やソ連国境に配置された小隊もあったようです。

泥秋村は、荒野の中の淋しい田舎の村でした。冬は酷寒の土地で、一年の内半年は雪です。反対に夏は、内陸性気候で熱いのです。夏、大きなアブ(日本にいるアブの十倍はある)が家畜に付くと、それが狂ったように騒ぐのを忘れません。

私はここで運搬の仕事をしていました。主に駅に着いた生活物資を運んでいました。雪で運べない時は人間ソリが活躍しました。

その時、そんなことを聞いても、別に何とも思わなかった私でした。

後で知ったことですが、それは、満州でも朝鮮でもおこなわれてきたそうです。そのため、土地や職を失い、日本へ来た人も多くいます。中には、強制的に連れてこられた人もいます。

今にして思えば、私たちの小隊は関東軍の予備軍であり、使われない存在だったように思います。衣・食住にしても、兵隊より下です。同じ物を何日も食べたのを覚えています。又、上からの命令があれば絶対服従で、

兵隊と同じようなことをするのです。

「満蒙開拓青少年義勇軍」は私にとり、一時の憧れであつたことがわかってきました。泥秋村は街から遠い、冬は極寒、出来る作物は少なくそれに一毛作で魅力はあまりありません。できたら帰国したいなあと思っていました。そう思っていたのは私だけではなかったとおもいます。

雪解けで土が黒くなる頃、あちこちから死体が表れてきます。餓死か凍死かわかりませんが、内心ぞっとしたものです。

昭和十六年(一九四一)私は二十歳になりチチハルで徴兵検査を受け、甲種合格になりました。その場で、現地入隊希望か帰国希望かといわれ、一旦帰国しました。

間もなく招集がかかり、宇品から船に乗り中国大陸に向かいました。任地は、最近大地震で大きな被害の出た北支の「張家口」でした。

人事

- 小学校(幼)(就任) 八幡小 犬石直介
- 教諭 藤本正良 渡瀬小 藤本小次郎
- 教諭 新田敏江 本原小 木原小次郎

●PTA 会長 小川敦道

●子ども会 会長 西本 薫

深小(幼)児童数

学年	男	女	計
一年	八	七	一五
二年	四	一〇	一四
三年	一	二	三
四年	八	六	一四
五年	四	九	一三
六年	五	三	八
計	八五	三七	一二二

作文発表小さい頃の遊び

今の子どもの遊びを見て「昔とちがう」と思われることが、多い。短い文で結構ですから、みなさんの子どもの時代を思い出して書いてください。

送り先 高崎壽郎・平岡功一

ダム放水のお知らせ

五月二日から放水します。有効にご利用ください。

深町利根組合 組合長 石井静夫

日本から、村ごとちようないごとの集団移住・入植もふえてきました。きいた話ですが、彼等は、住んでいる人の土地を安く買収したのか、とり上げたのか、追いついて、自分達の家を建て耕作を始めるのです。先祖伝来の営々と開いてきた土地を離れる者がいます。屈辱以外何もありません。悔しさ、なさけなさで涙も枯れたと思います。又、新しい土地を求めて一からやり直して、ろくろく農具もないので大変な苦勞が待っています。



絵 船本輝明

深町の歴史余話 三

千川神社物語(3) 奉納絵馬について 高崎 壽郎

絵馬とは、祈願や報謝のため、社寺に奉納する絵の額。生きた馬の代わりに絵を描いて奉納したのが始まりといわれる。屋根形の小絵馬や大形の額絵馬などがある。(大辞泉)今は、時代を反映してか受験の合格祈願の絵馬が多いようである。

千川神社の拝殿の正面で、まじり目に入るのが、鬼子母神の大きな額絵馬である。奉納者は下組の平木サヨさんで時代は不詳。尚、平木姓は現存しない。

ご存知のように「鬼子母神」は女神の名。千人の子があったが、他人の子を取って殺して食べたため、仏はその最愛の一児を隠してこれを教化し、のち仏に帰依して出産・育児の神となった。手にザクらの実を持ち、一児を抱く天女の姿をとる。人々は多産増殖の女神として信仰する。

サヨさんは鬼子母神に何を祈

念したのだろう。拜殿の内に入ると、ちよっと気付きにくい、鴨居の所に「三十六歌仙絵馬」が掛けてある。平安中期以降「古今集序」に評された六歌仙にならって六人または三十六人の秀れた歌人を選ぶ習慣ができた。

三十六歌仙は、藤原公任(五六二)の三十六人撰に基づく三十六人の秀れた歌人のことで、よく名の知られている人をあげると、柿本人麻呂、紀貫之、大伴家持、山部赤人、在原業平、僧正遍昭、紀友則、小野小町、源順らがある。

絵馬は縦42センチ横25センチで、縁とりのある長方形の板に一人ひとりの肖像を描き、それぞれ一歌一首を添えたもの。書は達筆そのもの。絵もカラで人物の特徴をよく掴んで描かれていて、全体に、実に鮮やかな出来栄である。

少し残念なことは、三十六枚中七枚が欠けていることだ。絵馬の奉納者やその時代もわからないが、相当昔に奉納されたようだ。

神社に三十六歌仙の絵馬が奉納されていることは、極めて珍

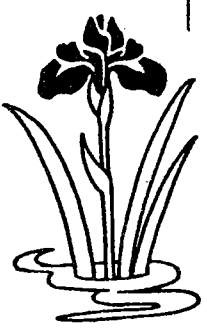
97(H9)年度町内各種団体助成金配分先収支決算書

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
市子連補助金	1,500	市子連負担金	18,250
連合会補助金	150,000	親子連負担金	11,550
PTA補助金	40,000	防犯組合負担金	3,000
ゴミ処理金	98,760	キャンプ	284,814
商品回収	146,850	ソフトボール	30,965
雑入	21,000	創作大会	15,540
利息	29	お別れ会	47,440
特別負担金	150,000	お祝・甲斐金	5,000
年会費	7,000	贈り物	20,000
雑入金	2,530	雑費	47,954
		次年度繰越金	991
計	485,504	計	485,504

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
会費	152,000	運営費	57,503
市老連補助金	57,600	会議費	(16,700)
町内会助成金	20,000	旅費	(6,500)
寄付金	23,080	事務費	7,430
事業収入	0	慶弔費	(11,253)
雑収入	26,264	負担金(市老)	(10,000)
利子	275	雑費	(5,620)
雑入金	298,325	活動費	147,420
		ボテ活動費	0
		生きがい活動費	(122,300)
		健康活動費	(13,120)
		学習活動費	(12,000)
		雑入金	372,621
合計	577,544	合計	577,544

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
前年度繰越金	9,513	G管理費	33,229
会費	45,500	競技大会参加費	23,763
連合会助成金	45,000	車代	13,000
大会参加費	9,000	燃料費	4,844
雑収入	4,100	賛助者手続料	10,100
		雑支出	8,462
		次年度繰越金	19,709
計	113,113	計	113,113

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
前年度繰越金	6,395	コピー代	3,765
連合会助成金	20,000	フイルム・印刷	420
		原簿用紙・ボールペン	1,000
		修正液	400
		次年度繰越金	20,810
計	26,395	計	26,395



最近では昨年暮、中組船本輝明氏が、山陰の「夢博」の絵馬を奉納された。

維持管理に心掛けることは私達の務めだと思ふ。